

未来館

MIRAIKAN NEWS

自分らしさを生かした未来へ—— 2004.8 No. 14



◎特集 男女共生講演会

**「一人一人が生き生きと
本当の自分を生きるために」**

中森じゅあんさんと下村館長によるトーク&トーク

一人一人が生き生きと 本当の自分を生きるために

平成16年6月13日(日)、当センター研修ホールにおいて、「男女共生講演会」が開催されました。各女性誌で鬼谷算命学をもとにした人生相談などで活躍中の中森じゅあんと下村満子館長によるトーク&トーク「自分らしく」生きるというテーマでのお二人のお話に、会場の皆さんも大変参考になった様子でした。

【鬼谷算命学について】

下村 中森じゅあんさんは元々、長い間、一流のコピーライターとして活躍していらっしゃっていましたが、ご趣味で勉強していた鬼谷算命学が今や本業になり、そちらの方でも超売れっ子のエッセイスト、ライターとして大活躍されています。大変多才なユニークな方なのですね。私は、中森さんは、鬼谷算命学を通じてですが、人間学をやっているというのが素晴らしいことだと思うのです。人間の生き方、人間がより幸せに生きるにはということへのアドバイス、そういうことをやっていらっしゃる方です。

対談の前に、なぜ男女共生センターでこのテーマでやるの？関係ないんじゃないの？と思う方もいるかも知れませんが、そうではないんです。男女共同参画社会というのは、女として、男としてとかではなくて、「人間として」いかに生きるか、人間として生き生きと幸せに生きる社会を追究しようとするのが、男女共同参画社会の目指すところなんです。基本的には生き方の姿勢というところに帰着するので、最終的には、男でも女でも一人一人が生き生きと本当の自分を生きる、自分らしく生きる

ということが、男女共同参画社会の目指すところなんですよ。ただ、自分らしく生きるというのは、自分勝手に生きればいーんだという、利己的に生きることと間違えられやすいですが、決してそういう意味ではないと、自己中心ということではないということ、まず、最初にお断りしておきたいと思います。

皆さんの顔が一人一人違うように、
考え方や生き方が一人一人違うことの
面白さを鬼谷算命学から学びました

(中森)

では、早速、中森さんにお話を伺いたと思います。中森さん、鬼谷算命学の勉強とコピーライターとは、最初は二足のわらじでやっていらしたんでしょ？

中森 私が鬼谷算命学にのめり込んだのは、わからないことを知りたいと思う一つの手だて、考え方が鬼谷算命学にあったからです。どうして、生年月日でその人の運命や宿命がわかるのかなということから始まり、この科学の時代に古くからの学問である鬼谷算命学がなぜこのまま通用するのかな、と思っていたら、その面白さにはまってしまいました。それで、コピーライターをしながら、趣味で10年近く鬼谷算命学をやっていました。皆

中森 じゅあんさん

(「日本算命学協会」代表、エッセイスト)

日本大学芸術学部文芸学科を経て、同大学文理学部中国文学科卒業。1960年から27年間、コピーライターとして広告業界で活躍する。1972年から算命学の大家・高尾義政氏に師事、孔位(こうい)を授与される。

また、エッセイスト、詩人、バイオシンセンス・セラピストとしても活躍する。現在、「日本算命学協会」代表。バイオシンセンス研究センター(海外支部)副所長。人間に対する大きな愛と人生に対する深い示唆に富んだアドバイスで女性誌を中心に執筆、講演、ワークショップなどでは多くのファンを持ち、幅広い分野で活躍している。



下村 満子

(福島県男女共生センター館長)

慶応義塾大学経済学部卒。ニューヨーク大学大学院経済学修士課程修了。朝日新聞社入社、「週刊朝日」記者、朝日新聞ニューヨーク特派員、ハーバード大学 ニーマン特別研究員、「朝日ジャーナル」編集長、朝日新聞編集委員などを経て、フリーのジャーナリストに。ポーン・上田国際記者賞を女性で初めて受賞。

現在は健康事業総合財団「東京顕微鏡院」および医療法人社団「こころとからだの元氣プラザ」理事長を兼任。米国コロンビア大学医学部アテナ賞を受賞。その他、経済同友会副代表幹事、福島県男女共生センター「女と男の未来館」館長、女性のためのアジア平和国民基金理事などを務める。著書に「編集長・下村満子の大好奇心」「いい男の時代」「成功の条件」など多数。



さんの顔が一人一人違うように、考え方から生き方とか違うことの面白さを鬼谷算命学から学びました。そしてもう一つは、その人が「どう考えるか、どういう心を持っているか」で、同じ生年月日の人でも人生が全然変わってくるということなんです。ですから、人生を変える力も持っている心の問題について考えるようになっていったのです。

下村 中森さんも二足のわらじということですが、私も肩書が自分でもわからないくらい沢山持っています。なぜやっているの?と言われると、自分のやりたいこと、いわば内なる声とおりに生きてきたからだと思うのです。最初、ジャーナリストを目指したというのも、結局、私は書きたいという、中学の頃からそういう強烈な自分の内なる声に惹かれてそちらの方に歩いてきてしまった結果なのかなと思います。やはり、自分の心の声に正直に従って生きてきて、やっぱりジャーナリストになっていたという感じです。だから、じゅあんさんも結局は自分の内なる声というか、自分のやりたいことをやって来た結果、今の自分があるということなのでしょうけれど。

会場の皆さんに、すごく簡単にわかりやすく、鬼谷算命学とはどういうものなのかご説明いただけますか?

中森 鬼谷算命学というのは命を数える学問なのでですね。命というのは人生のことです。つまり、生きている間の人生を数えるということなのでしょうけれど、使うデータというのがその人の生年月日なんですね。地上に生まれてきた、その時の生年月日というものが宿命になるわけです。そのデータを見るとそこに自分の世界があることがわかります。国で言うとその国の持っている資源というか、そういうものがあるわけですね。

下村 あるいは、その人が持った才能とか。

中森 そうですね、才能ですね。ですから、内なる自分の欲求を中心として、なおかつ、生年月日からわかるその人の星の宿命を知っていると非常に生きやすくなるということなんです。人間、直感というか内なる声に従って好きなこと、楽しいこと、興味があることを自分に許している人は、本当に自分の持っているものを生かしている人が多いということに気がついたのです。私は鬼谷算命学の勉強を始めた時に、自分の生年月日から自分の星の宿命を出してみても、「何で私はこういうことが好きなんだろう?」とか、あるいは「自分が人と違うのはどうしてだ

ろう?」という疑問がいくつかあったわけなんですけれど、それが、生年月日から全部謎が解けてしまったんですね。何のことはない、なんだ、自分は星の宿命の通りに生きてきたということなんです。

下村 生年月日で人生がある程度わかるということですか? それは、この世に生まれた、子宮から出てきた瞬間に宇宙というか、大自然とその人の関係が決まっているというようなこと?

中森 そうです。小宇宙というのですけれど。

下村 人間は結局、人間自体が一つの小宇宙なんですよ。それだから、自然との関わりや生年月日のような、この世界との関わりが大事だということなんです。季節とか、月とか、日とか、その瞬間の宇宙と自分との関係がそこにある。

【宿命と運命】

中森 自分の生年月日から自分を星に代えて占ったとき、例えば「あなたは、こういう才能を持っています。」と具体的に出てくるんです。でも占いにあったことは、永遠に変わらないものではないんです。持った宿命は変わらないけれども、運命の上でいくらでも私達の意思と選択でよりよくできるわけなのです。

下村 今、中森さんがおっしゃったように運命は変えられるということですよ。つまり、宿命は変えられないけど、運命は変えられるということだと。では、宿命と運命の違いはということなのですか。

男でも女でも一人一人が生き生きと
本当の自分を生きる、
自分らしく生きるということが、
男女共同参画社会の目指すところ

(下村)

中 森 その人にとって非常に基本的なことだけが宿命なんですね。ただ、生かすか生かさないかというのは、一人一人の意思にもよるわけです。自分の才能を自分で発見できない、使えない場合は宝の持ち腐れになっちゃう。

下 村 だから、逆に言えば運命というのはいくらでも自分の力で開発していけるということでしょう？

中 森 そういことです。

下 村 宿命というのは自分の環境というのかしらね。神様から与えられた。それをどういうふうにも上手に使うかということによって、宿命と同時に、自分の運命を開発していくか、していかないかっていうことにも関わってくるわけだから。人間の遺伝子をどんどんONにしていくと、どんどん自分の可能性が開発されるのに、スイッチをONにしないまま、OFFにしたまま死んでいく人がほとんどです。だから、人間というのは本来そんなにちっぽけな存在ではなく、いろんな可能性があると考えていいと思うのです。

中 森 では、可能性のスイッチをONにするにはどうしたらいいかっていうのは、私の考え、体験からすると、自分の好きなことをすることなんです。例えば、植物が好きだな、植物と一緒にいると幸せでしようがないということは、その状態がもうONになっているわけですね。それは楽しいことだし、自分の内に持っているものをONにしているから生き生きしているのです。



自分の内なる声を大切に

下 村 そうね。好きだと思うことは、理屈じゃないんですよ。頭だけで、首から上だけで生きている人が多すぎるの。学校では、勉強とか知識とかが一番大事だと教えられていて、社会でも学校の勉強ができないのはバカだとか決めつけてしまう傾向があります。でも、そうじゃないんですよ。人間はトータルなものとして考えていかなければいけないと思うのです。例えば、いま私は医療法人の理事長をやっていますが、漢方だとか、東洋的な医療というのは、人間の体を1つの小宇宙と考えると、トータルに、心も含めて扱うんですよ。人間の臓器を集めて組み立てたら人間になるかと思ったら、そうはならない。つまり

そこに命の源泉である、気というものがあってトータルな人間の小宇宙ができていくわけですよ。だけど、今は目に見えないものは信じないという、科学が全ての社会です。むしろ、目に見えない方の世界にも目を向けてみるのが、今必要なんじゃないかなと思うのですけれど。

中 森 その通りだと思いますね。相談者の生年月日からその人の星を見て、この人はこういう能力があるなと思って相談にのりますと、全然その人の持っている能力が生かされていないんですよ。どうしてかという、そこにはその人自身の心の問題があって「なかなか難しいんじゃないかな」と自分で思いこんでしまっているためだと思います。それで、何か1回ぐらい思うようにいかないことがあったりすると、もうだめだと決めつけてしまう。そういうことで、ご自分の人生がもったいないことになっている人がとても多いのではないのでしょうか。

ですから、自分が好きなこと、自分がこうしたいと思うことをちゃんと受け入れて、自分の声に従って、それが実現すると信じていることがものすごく大事だと思うのです。信じて行動することが大事です。感じることを素直に受け入れ、具体的に考えて行動するという、すごくシンプルな事だと思うんです。

下 村 何をやりたいかという時も、私や彼女のように自分の心の声を聞かずに、華やかさとか、金儲けができるとか、外にばかり目が向いている人が多いのね。そんなことばかりやっているから、生き生きと生きられなくなるわけですよ。私は人生というのは長い自己発見の旅だと思っているんです。死ぬまで自己発見を続ける旅。だから、50過ぎて人生もうそろそろ終わりだなんてとんでもない話ですよ。いくらでも遅すぎることはないんです。

ここにいる方も私もそれぞれ、人間ですからいろんな悩みとか問題を抱えていると思うんです。それをどうやって解決していくかというところが聞きたいところなんですけれどね。中森さん、一番いい方法というのは、自分の内なる声を気にかけてみるということですか？

中 森 そうですね。それで相談者によく言うのが、例えば、二者選択の時に、「あなたはどっちの？」と聞くわけですよ。

まず、どっちの？かという時は、頭じゃなくてハートに聞いてみるのが大事です。「AさんとBさんとどっちが好きですか？」とかね。そうすると体が反応するわけですよ。なんか、Aさんのことを考えているとなんか、ふわっと暖かくなるとか、ちょっとドキドキするとか、それは、心の声なんですよ。生き生きとするよ

人生というのは、死ぬまで
自己発見を続ける長い旅—
50過ぎて人生もうそろそろ終わりだ
なんてとんでもない話

(下村)

自分の中にある可能性は、 自分を愛することで見つけられる

(中森)

うな幸せな気持ちは、本来、自分が知っていることなのですよ。ですから、身体、つまりハートで感じる感性を大事にするのがいいと思います。

それから、世の中で今いろんなことが起こっていて、そこにはさまざまな価値観がありますよね。自分で感じるということをしていないで、これは世間的に見ていいんじゃないか、あるいは、こうするのがいい子と思われるんじゃないかと考えて行動すると、いつのまにか自分を抑圧してしまっているんですね。言いたいことも言わない。感じることをも許さない。そうするとだんだん溜まっていって、そしてどこかでぶつんとなる。

子どもの場合を例にしますと、おとなしくしなさいと言われて、泣くとお母さんに叱られる。そうすると、泣くということはいけないうことなんだと思い、子どもは、泣くとか悲しみとかを閉ざしてしまうんですね。人間には喜怒哀楽があって、それをしっかりと感じていくことが、生き生きと生きる1つの原点、秘訣だと思うのです。

下村 素直に自分のありのままを受け入れる。それを押しさえ込んだりしない。泣きたい時は泣き、怒りたい時には怒るのは人間にとって必要なことだと思います。だからといって、規律がないというのも困るわけですよ。やっていいことと悪いことというのは、きちんと教えなくちゃいけない、それは教育しなきゃいけないと私は思うのですけれどね。

トークの後、会場の皆さんからのご質問について、次のようにお話されました。

○今、カラーセラピーの勉強に行っていますが、アルバイトをしながら、将来的にはカラーセラピストとして自立していきたいと思っています。何かよいアドバイスをいただけませんか。

中森 勉強したことを周囲の人に役立てていくということからしていったらどうでしょうか？

下村 自分のやりたいことを利他の精神を持って行うということでしょうね。そして、人のお役に立つことが、生き生きできることなんだということだと思います。自分を生かして、それが人様のお役に立って喜んで頂くことこそが嬉しいのですよ。人間は、それで充実感を感じるものです。自分も人のためになっている。動機がその喜びから始まらないとね。それが結果的に、続けていくうちにお金という形で返ってくると思います。最初にお金を求めてやるということではなくてね。それはあらゆる職業において、そうだと思いますよ。

○一般の企業でOLをしながら、空いた時間でハンディキャップがある人達との芸術活動をやっています。短期で海外で勉強してみないかという話もいただいているのですが、その話を受けると今やっている仕事をやりながらというのは、難しい状況です。自分の中で決断できなくて、日々揺れ動いている状況です。

下村 まず、局面を打開するためにぶつかってみることが大事だと思います。執念みたいなものがちょっと足りないと感じます。長いこと会社に勤めていれば、会社の誰に話すれば、上役まで話が伝わるといことは、ある程度わかると思います。まずはそのキーパーソンに話をしてみてくださいよね。それで駄目なら、その時にまた考えればいいと思うのです。生活といっても、その仕事を辞めたら、未来永劫、仕事が二度とないというわけでもないでしょうし、本当に行きたかったら仕事を辞めて行って、その後、また仕事を探すという選択肢もあります。でも、あなたにとって、やっぱり会社に残ることが安全といういいこともありますので、最終的には、あなたの選択ということですよ。

中森 本当にこれが欲しい、こうしたいという時は、手の中に今持っているものを一度捨てるということも必要だと思うのですよ。また、背水の陣で、当たって砕けるという気持ちで一生涯懸命にやってみて、最善を尽くしても駄目だったら、その時に自分にもう一度自分の内なる声に耳を傾けてみてください。それで、「やっぱり行くんだ」となったら会社を辞めて、また帰ってきてから仕事を探せばいいんじゃないかと私は思います。本当にしたいこと、あなたの内なる声はどちらの方が大きいのか聞いてみてください。

まとめとして

中森 基本的な大事なことは、愛だと思うんですよ。自分の中にある可能性、それは、自分を愛することで見つけられると思うのですが、それはとても大事なことなのですよ。自分の声を正直に表現する。自分に聞いて自分で受け入れる、自分を愛するということだと思うのです。

下村 「愛」というキーワードは、私もすごく大事だと思います。私は先ほど、利他の精神という言葉を使いました。自分を生かすのは何かということは、自分の内なる声でやりたいことをやるということだと思います。このことは、男性、女性、若い人、年を取った人、一切関係ありません。すべての人に共通だと思います。まず、自分を見つめることから始めてはいいかがでしょうか？

高校生向けの副読本が できました!

平成15年度に、福島県が高校生向けの副読本を作成し(作成県民環境総務領域人権男女共生グループ)、今年度から各高校で活用されます。

副読本では、マンガや福島県・日本・世界を比較するデータのイラストなどを多数用いて、とても見やすく、わかりやすい内容となるように配慮しました。

(福島県のホームページからご覧いただけます。

<http://www.pref.fukushima.jp/danjo/>)

早速、この副読本をすでに活用している高校生・先生にインタビューしてみました!



主な内容

■人権

- ・ステレオタイプで決めつけていない?
- 身の回りを見てみよう
- ・子育てって、だれの仕事?
- ・女性の社会参画 こんなに違うの?

■性の尊重

- 先輩からのメッセージ
- ・假屋崎省吾さん
- ・市川三恵子さん

高校副読本インタビュー

双葉高校

— 副読本で一番印象に残ったところはどこですか?

- 県内の各市町村の取組みが載っていて、まだ双葉町には条例ができていないことがわかりました。双葉町は遅れているのかな?
- 橘高校の男女共同参画の取組みを読んで、私も自分から積極的に考えていきたいと思います。
- 副読本のクイズ「トラックの運転手は誰?」が一番印象に残りました。トラックの運転手と聞くとつい男の人と思ってしまいます。

— 自分に関わりのあることだなと思ったところを教えてください。

- 家で食事のときに、祖父母から食事の用意をしなさいといわれることがあります。私には兄がいるのですが、兄は食事を作りなさいとは言われません。私だけなぜ、と思うときがあります。
- マンガの中で、兄の夫婦が協力して家事を分担している場面があるのですが、実は、私の家でも兄夫婦が同居していて、二人で協力して家事をしています。家事はお母さんがするものだと思っていたので、兄夫婦は不自然だと思っていましたが、そう思う自分が不自然なんだなって気づきました。

— 今後自分で気をつけようと思ったことなどをお聞かせください。

- 今、双葉高校の生徒会長が女性で、私が中学校のときも生徒会長は女性でした。責任のある地位の仕事が女性に向かないということではないと思います。「男のくせに、女のくせに」なんて、性別で決めつけることがないように気をつけたいです。
- ジェンダー意識にとらわれすぎると、個人の良いところをなくしてしまうことがわかりました。自分は、「FHH」という家庭クラブに入っています。「男が家庭クラブなんて」などと、周りからは反対されることもあります。好きな活動なので続けていきたいです。



さとこ 松田 怜子さん、荒 由利子先生、富岡 泰隆さん

○荒 由利子先生(家庭科)

— 副読本の印象はいかがですか?

ジェンダーや性についてのことなど、とても分かりやすい教材だと思います。私は家庭科の教員として、家庭科は「生きること」を教える教科だと思っています。副読本の最初に、人権の重要性について触れていましたが、自分らしく生きることはまさに人権の問題だと考えています。私の考えにもぴったりの副読本でしたね。

— 高校生には、今後、この副読本をどのように活用してほしいですか?

この副読本には、ジェンダーだけではなく、ドメスティック・バイオレンスやセクシュアル・ハラスメント、性のことなど、高校生がこれから直面するであろう問題を取り上げていて、なるべく早いうちから知っておいた方がいいと思います。

授業で使ったということだけではなく、生涯そばにおいて活用してもらえたらいいなと思います。そして、地域や家庭で人権意識や男女共同参画の考えが根づいていってほしいですね。



県立長沼高校2年生のみなさん
 (写真前列左から、松井 千裕さん、山本 由美さん、広田 良一さん、
 後列左から、小山 伊彦さん、高久田 啓光さん、柳沼 善人さん)

— 副読本で一番印象に残ったところはどこですか？

- 男女差別を実生活であまり考えることがなかったから、ジェンダーとか、副読本に書いてあることではじめて気づいたことも多かったです。
 - マンガの中で、お兄さん夫婦が家事を協力していたところが印象に残りました。最近、「専業主夫」のドラマがありましたよね。私は、積極的に「専業主夫」を目指しているわけではないですが、「専業主夫」でもしっかりできる、という自信はありますね。
 - ヌード付きカレンダーを貼っているだけでセクハラになるの？今まで気づきませんでした。
- 自分に関わりのあることだなと思ったところを教えてください。
- ドメスティック・バイオレンスのことは、自分にも起こりうる身近な問題だと思います。冷静に考えれば、好きな人に暴力を振るうというのはとても恐ろしいことなのに、どうしてそうなってしまうのでしょうか。
 - 男性の幼稚園の先生の紹介がありましたけど、私も親から「保育士目指してみたらどうだ？」って言われたことがあります。最初は、

男が保育士なんて…としましたが、その反面、興味もあります。チャレンジしてみるのもとても面白いと思っています。

- 私の携帯電話にも迷惑メールがたまにくるんですが、ほとんどが出会い系サイトです。実際被害にあった人の話も聞くので、気をつけたいと思います。
- 今後自分で気をつけようと思ったことなどをお聞かせください。
- 気づかないところで差別をしているかもしれないので、ジェンダーに敏感になって気をつけたいですね。
 - 男だ、女だということにはとらわれずに、自分が生きたいように生きることが一番だと思います。



○小林 陽一先生(現代社会)

— 副読本の印象はいかがですか？

現代社会の教科書に、「男女共同参画」について学ぶ単元があるのですね。理解を深めるために併せて副読本を活用しました。自分では、ジェンダーへの理解や性

別役割分担意識について詳しく解説したつもりです。生徒にとって、多様な価値判断基準があるということを知ってもらいたかったからです。

— 高校生には、今後、この副読本をどのように活用してほしいですか？

生徒を取り巻く社会環境もずいぶん変わってきました。生徒も共働きの家庭が多く、家庭内の仕事をやらざるをえず、男女の役割を言っていられない状況にもあるようです。

副読本には、さまざまな職業に就いている男女を紹介するページがありました。生徒たちには、いろいろな可能性があることを知ってもらいたいですね。男女差別や性別役割分担意識を感じるのは、社会に出てからだと思います。生徒たちには、自分に自信を持って生きることができるようになって欲しいと思います。

「副読本の活用法について」

副読本作成検討委員長 辻 みどりさん(福島大学行政社会学部教授)に聞く

今まで見えなかったもの、
 感じなかったことに「気づく」ための本。
 自分の可能性を伸ばしていく
 きっかけにしてほしい



以前、男女共生センターで高校生や教員の意識調査を行ないましたが、「男女平等」については頭では理解しているけれど、実際には、男子生徒と女子生徒の行動や教員の男子生徒と女子生徒に対する扱いが違うことがあるといった矛盾が見られるというショッキングな報告がありました。それから4年が経過してはいますが、県として、男女平等についてより深く考える教育が必要だと思ったのです。

男女平等と思われている学校社会の中でも、目に見えない押し付けがあります。重いものを持つ仕事は男子がすべきとか、女子はやさしい気配りができないといけいなど、このような考え方は「ステレオタイプ」と言われるのですが、学校生活の中でそのような押し付けはありませんか？

高校生の皆さんは、就職や大学進学などでこれからの自分の進路について考える機会が増えてきます。自分らしい生き方をしていくためにも、ステレオタイプの固定観念に縛られないことが大事だと思うのです。そのためには、まずは「気づく」ことなのです。

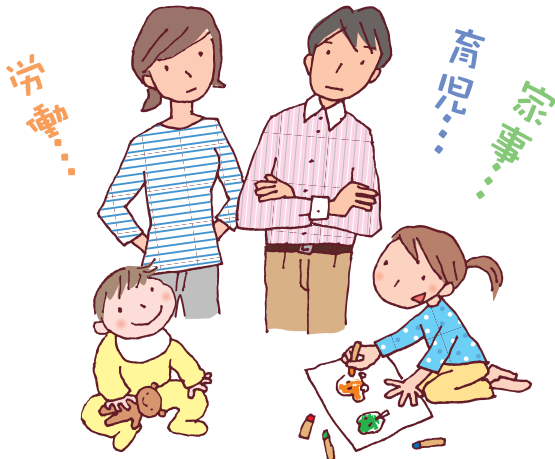
この副読本は、学校や地域での日常生活の一コマをわかりやすいマンガなどを通して、今まで見えなかったもの、感じなかったことに「気づく」ための本です。県内の高校生向けに作った副読本ではありますが、先生方や高校生のご家族の方にも考えていただけることも願っています。

また、副読本では、福島県・全国・世界のデータ比較ができるようにしました。自分の身近なせまい地域だけではなく、世界のことにも目を向け、自分の人生を大きな視点から考えることができます。これからはますます国際化が進み、多くの国のさまざまな文化と触れ合うことも出てくることでしょう。異文化を理解し多くの価値観を受け入れることもとても大事なことです。

「自分らしく生きること」とは、性別によって不当な差別をされないこと、それは「人権を尊重すること」でもあります。この副読本を読んで、自分の可能性を伸ばしていくきっかけとなればいいなと思っています。

(聞き取り:調査研究室 岡部)

「福島県の男女共同参画社会における多様な働き方についての調査」の概要



福島県男女共生センターでは、本県における男女共同参画社会の形成を推進する上での問題点を探るための調査研究を行っています。

今回は、平成14年度の岡田薫専門研究員による自主研究の結果の概要についてご紹介いたします。

1. 調査の趣旨

2002年4月(一部同年7月)に「福島県男女平等を実現し男女が個人として尊重される社会を形成するための男女共同参画の推進に関する条例」が施行された。そこでは、「男女共同参画の推進は、家族を構成する男女が、相互の協力と社会の支援の下に、子育て、家族の介護その他の家庭における活動及び職場、学校、地域等における活動とともに参画することができるようにすることを旨として、行われなければならない」という基本理念(第3条4項)のもと、職業生活や職場における男女共同参画推進の必要性がうたわれている。つまり「男女が共に職業と家庭を両立させながら、その能力を生かしていきいきと働くことのできる環境作り」は県を挙げて取り組むべき政策の指針のひとつとなっている。

2. 調査の方法

- (1) 調査地域 福島県全域
- (2) 調査対象 当センター講座参加者、市民グループ等 満20歳以上の男女
- (3) 標本数 1,885名(女性1,482名、男性403名)
- (4) 調査方法 郵送法
- (5) 調査期間 平成14年11月
- (6) 有効回収率 53.7%(有効回答数 1,010)

3. 結果の概要

(1) 一般的な男女観・性別役割分業について

「男は男らしく、女は女らしく」という考え方については肯定的な人が半数弱

「男は仕事、女は家庭」という考え方については否定的な人が約6割

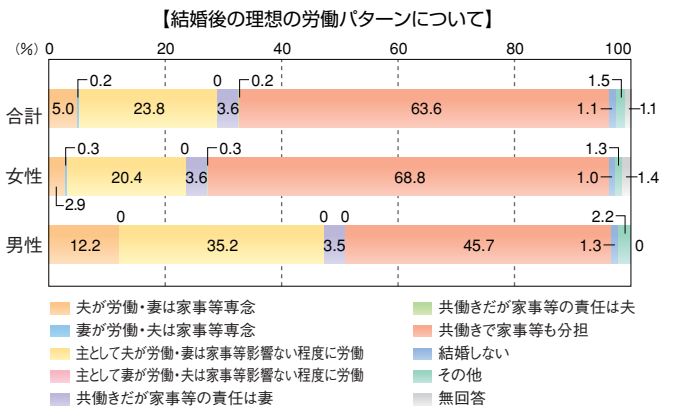
(2) 社会の各場面における男女の地位について

伝統的な性別役割分担意識は、「家庭<職場<地域社会」の順に強くなると感じている人が多い

(3) 家庭での労働の分担について

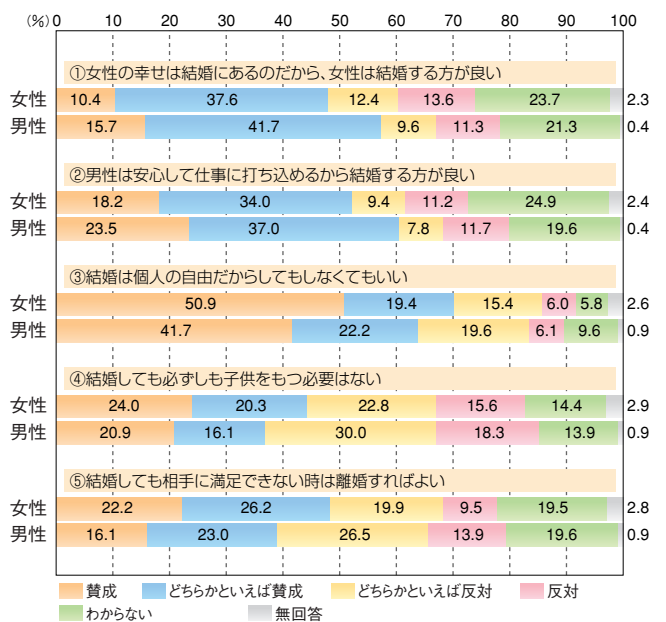
理想は「妻も夫も働き、家事や育児も二人で分担する」パターンが最も多い

現実には、世帯収入を主に支えているのは外で長時間働く男性であり、家庭内の暗黙的な性別役割分担構造が温存されている



(4) 結婚・離婚・家庭について

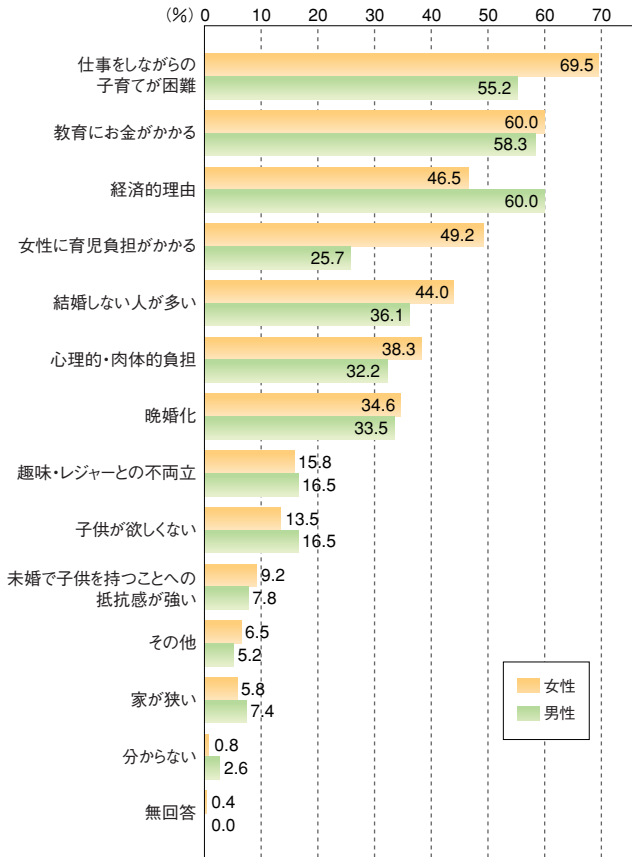
全体の7割弱の人が『結婚は個人の自由であるからしてもしなくてもいい』という考え方を支持しているが、男女別では、概ね男性の方が女性よりも、結婚、出産、離婚に対する保守的なイメージを支持する割合が高い



(5) 出生率低下について

最近の出生率減少の理由と思われるものは、「仕事をしながらの子育てが困難」「教育にお金がかかる」「経済的理由」等を挙げる人

が多いが、女性ではこれに加えて育児負担の大きさを挙げる人も非常に多い

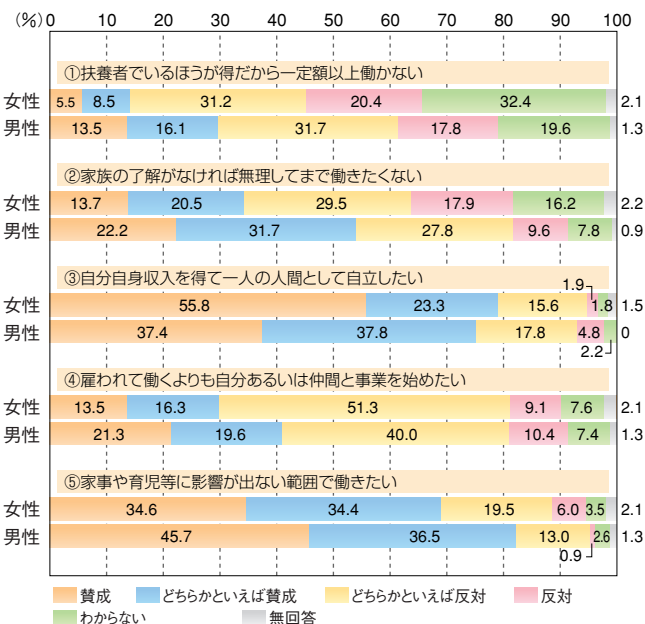


(6) 女性の職業生活について

女性は家事や育児などと両立しながら、自分の収入を得ることによって経済的な自立をしたいという意向が一般的に高い

男性は、女性が働いて収入を得ることで経済的自立をしようとする事自体には肯定的であるが、働き方に関しては、時間も収入も「ほどほど」のところを納めてほしいと願っている

女性が家庭を犠牲にするほどの働き方や生き方は、男女とも県民の間にはあまり受け入れられていない



(7) 女性の就業継続の要件について

女性の約半数が離職経験があり、その理由としては、「結婚」「出産」「家族の転勤」など仕事の中身以外の要因によるものが多い

女性が仕事を続けるための要件として、男性は全般的に職場の制度や環境の具体的で実践的な改善を重視する傾向があるのに対し、女性のほうが、女性自身の意識改革や社会通念の変革を求める傾向が強かった

(8) 関連用語の認知について

全般的に認知度が高かったのは、「セクシュアル・ハラスメント」「育児・介護休業制度」「男女雇用機会均等法」「ワークシェアリング」など
全般的に認知度が低かったのは、「アンペイド・ワーク」「家族経営協定」「ポジティブ・アクション」など

4. 調査結果からの考察

【現在も様々な立場から、男女共同参画の理念に基づき、女性のエンパワーメントにつながる活動や学習が独自に続けられている】

このような活動の主体として、地域に存在する人間が、地域に密着した課題の解決のために、先進的できめ細かいサービスを提供しようとするNPOなどが有望視されている。しかしNPOという存在自体がまだ認知不十分な部分もあり、課題も残されている。

【自らが経営者や主宰者となり、地域で働く女性のリーダー的存在として活躍するケースも見られる】

自らならんかのリスクを負う生き方を選択した女性からは、女性であることに甘えてはいけないということ、そして、自分たちが切り開いてきた道を次の世代に伝える責任があるという意見も聞かれた。

【農山村における女性労働の課題】

実際の作業は男女が共同して、あるいは女性の手によって行われている部分が多いのにも関わらず、農村部では都市部よりも性別役割分業意識が根強く、ジェンダー構造が再生産されるという問題点があるが、女性の経済的自立を促すための手段として、家族経営協定の締結や生活研究グループの活動などの動きも見られた。

今後求められる政策課題として2つの方向が考えられる。

●政策課題1:労働における多様性を尊重する制度

男女がそれぞれ個性や能力を発揮しながら多様な働き方で社会に参画し、経済的に自立できるという意味での男女共同参画を実現しようとするならば、それを担保する制度もまた必要である。例えば、「ファミリー・フレンドリーな企業経営」や「ポジティブ・アクション」などである。

●政策課題2:時代が要請する「キャリア」の概念

「働くこと」と「生きること」との関わりを真剣に考える必要性が叫ばれている近年、関心が高まっているのが、「キャリア・カウンセリング」である。

「キャリア」という言葉を考えるなら「生きる」ということや「人間関係」について考えることが大切であり、男女共同参画の文脈に照らし合わせてみれば、今後は個々人が自分の生き方や働き方を中長期的なキャリアの視点で考えることができるような教育訓練や啓発活動が行われることが、女性のエンパワーメントにもつながっていくだろう。

男女共同参画の本質は女性だけのものではなく、「男性も」、より自分らしい生き方を選択できるようにしようというものである。

男女共同参画社会実現のためには、男性は、「気づき、立ち止まり、歩み寄り」勇気を持ち、女性は、「気づき、表現し、仲間を増やす」知恵を養う必要がある。

※調査報告書は当センター図書室や県内各公共図書館などでご覧になれます。

センター事業紹介

地域リーダー養成講座 第2回 基礎コース

※この講座には無料託児はありません。

男女共同参画社会の推進を目指し、県内の各分野で積極的に活動したいと考えている方、初めて男女共同参画行政の担当者となった方など、リーダーとなる人材の育成を目指す講座です。男女を問わずご参加下さい!

- 会場…福島県男女共生センター ○受講料…無料
- 募集定員…先着50名(定員に達し次第申し込みを締め切ります)
(受講決定者には、申込締切後に受講決定のお知らせをお送りします)
- 参加申込み・お問い合わせ先…事業課/☎0243-23-8304

日程	月日	時間	内容	講師
前期	9月 2日(木)	10:00~	開講式	
		10:30~12:30	講義「男女共同参画社会実現へのあゆみ」	桜の聖母短期大学専任講師 二瓶由美子氏
		13:30~15:00	講義「みんなちがってあたりまえ ~男女共同参画とは~」	福島県男女共生センター 調査研究室長 湯田 邦彦
中期	9月 3日(金)	10:00~12:00	講義「住民参加と市町村財政」	財団法人ふくしま自治 研修センター教授 遠藤 哲哉氏
		13:00~15:30	演習「コーチング入門~コミュニケーション 能力をアップさせよう!~」①	コーチ 前田 文氏
後期	9月16日(木)	10:00~12:00	講義「NPOが地域で果たす役割」	NPO法人ふくしまNPO ネットワークセンター副理事長 松田 英明氏
		13:00~15:30	演習「コーチング入門~コミュニケーション 能力をアップさせよう!~」②	コーチ 前田 文氏
	9月17日(金)	10:00~12:00	講義「セクハラってなあに ~あなたの理解で大丈夫ですか?~」	財団法人21世紀職業財団福島事務所 雇用管理アドバイザー 菅野 知子氏
		13:00~15:00	講義「地域から元気を!~映画『らくだ銀座』の メインロケ地となって~」	NPO法人カルチャーネットワーク 理事 佐川 綾子氏
		15:00~	閉講式	

「女と男の未来館 公募研究レポート&シンポジウム」開催

テーマ「男性のためでもある男女共同参画~ドメスティック・バイオレンスと男性の性意識を手がかりとして~」

当センターでは、男女共同参画社会を形成する上で取り組まなければならないさまざまな課題を把握し、解決方法を探るための研究事業を実施しています。

今年度は、15・16年度の公募研究の中間報告と「パラサイト・シングルの時代」の著者として有名な山田昌弘東京学芸大学教授をコーディネーターとしてお迎えし、「ジェンダー平等達成における男性の役割」に関連したシンポジウムを開催します。どなたでも参加できます。

日時	主な内容	
平成16年 10月3日(日) 午後1時30分~	公募研究中間報告	渡辺 秀樹(慶應義塾大学文学部教授) 研究タイトル:「親密な関係に潜む女性への暴力」 田淵 六郎(名古屋大学大学院講師) 研究タイトル:「男性の性意識に関する実証的研究」
	シンポジウム	コーディネーター 山田 昌弘(東京学芸大学教育学部教授) シンポジスト 渡辺 秀樹(慶應義塾大学文学部教授) 田淵 六郎(名古屋大学大学院講師) 藍原 寛子(福島民友新聞社記者) 堀 琴美(福島県女性のための相談支援センター所長)

○場所…福島県男女共生センター ○参加料…無料 ○参加申込み・お問い合わせ先…県男女共生センター調査研究室/☎0243-23-8303

情報トピックス!

DV防止法が改正されました!

今年の5月末に改正DV防止法が成立しました。(施行は12月。)
改正法では、先のDV防止法成立時にも議論となった暴力の定義が拡大され、直接的な身体への暴力だけではなく、精神的な暴力や性的な暴力も「配偶者からの暴力」として法の対象となる前文が盛り込まれました。

そのほか、改正法では、以下のような保護命令制度の拡充がなされます。

○保護命令制度の拡充

- ・元配偶者に対する保護命令(離婚後に被害にあう危険が高い場合、裁判所が保護命令を発することができる。)
- ・被害者の子への接近禁止命令
- ・被害者の住居付近のはいかいの禁止
- ・退去命令期間の拡大(1ヶ月から2ヶ月へ拡大。)

・退去命令の再度申し立て ほか

県内では、DV被害者の一時保護等は、今年の4月に開所した「女性のための相談支援センター」で行なっています。当センターでは、DVでお悩みの方への相談を受けております。お一人で悩まず、相談することをおすすめします。

○DV被害者の一時保護、相談、自立支援

連絡先

▶女性のための相談支援センター
センター 024(522)1117(代)
相談専用 024(522)1010(代)

○DVで悩んでいる方の相談

連絡先

▶福島県男女共生センター相談室
相談室直通 0243(23)8320

福島県男女共生センター 施設利用のご案内

「女と男の未来館」は、 皆様のご利用をお待ち しております。

男女共生センターは、どなたでもお使いいただけます。
研修会や会議はもちろん、宿泊のみのご利用も
お気軽にどうぞ。



1F／研修ホール

400人収容可能なので、講演会や団体・グループの発表会、
音楽会、交歓の場として多目的に利用することができます。



2F／多目的研修室

壁面鏡があり、軽い運動など様々な用途に対応
できます。



3F／特別会議室

明るい開放感のある部屋に、ゆったりとした机と
椅子を備えています。少人数の会議にご利用いた
だけます。



4F／研修室

5つの研修室があり、人数や規模に合わせて会議や
研修などに利用できます。第2、第3研修室および第5
研修室(5階)には、ビデオプロジェクターを備えています。



5F／工作室

工芸などの創作活動のための研修室です。ろく
ろも備えており、陶芸にもご利用いただけます。



5F／調理室

いろいろな調理実習に対応できるよう、豊富な調
理器具が備えてあります。



5F／研修用和室

茶道や華道、少人数の集まりなどに利用できる
研修室です。

■ 宿泊をともなう研修でもご利用になれます

当センターは、最大50人が宿泊できる施設を備えています。宿泊室からは、センター
を取り囲む緑や霞ヶ城を臨むことができ、身も心もリラックスできる環境にあります。
宿泊料は4,200円で、ビジネスやレジャーなど、研修以外のご利用もいただけます。
どうぞご利用ください。

※食事料金は含みません。小学生以下は半額です。

※各室バス・トイレ付。TV、ドライヤー、浴衣、フェイスタオル、バスタオル、シャンプー、リンス、石けん、
歯ブラシが備え付けられています。

■ お問い合わせ

予約など詳しくは、福島県男女共生センター総務課まで
TEL (0243) 23-8301 FAX (0243) 23-8312



4F／宿泊室

洋室19室(車椅子対応1室)、和室3室。洋室は2人、
和室は4人まで宿泊できます。

未来館 ネットワーク



栗原さん(前列中央)と「ふくしま女性フォーラム」のみなさん

○問い合わせ先

ふくしま女性フォーラム 代表/栗原 るみ
 所在地 〒960-1296 福島市金谷川1
 福島大学行政社会学部 栗原のみ研究室
 電話 024-548-8278
 ホームページアドレス <http://myriel.jp/~wff/>

福島県の女性問題について数多く取り組んでおられる「ふくしま女性フォーラム」の代表、栗原 るみさん(福島大学行政社会学部教授)にお話を伺いました。

○県内で、女性問題について取り組む団体の先駆けである「ふくしま女性フォーラム」を結成されたいきさつについてお聞かせください。

1995年に北京で行なわれた「世界女性会議」に参加し、世界中で活躍している人たちの熱い思いを受けて、福島で何かアクションを起こそうと思ったのがきっかけですね。自分たち自身が福島での男女平等を実現するために、積極的に考え、動き出したかったのです。それから多くの方たちの賛同を受け、1996年3月3日にふくしま女性フォーラムを立ち上げました。

○具体的にはどのような活動をしているのですか？

現在、192名の会員が参加しており、「男女共同参画の視点から政策を検討する」「女性に対する暴力防止」など5つのプロジェクトチームがあり、相互に連携・協力して勉強会やアンケート調査などを実施しています。

また、県内各地で出前講座を実施し、赤松良子さんや大沢真理さんなど、国際的にも活躍している方たちをお呼びしての講演会なども行なっています。

○今後の活動について教えてください。

女性フォーラム結成当時は、新聞などのマスコミも注目し、男女平等実現に向けた社会全体の気運の高まりを感じました。私たちが活動を始めてから8年経った今、男女共同参画の活動は全国各地で進むと同時に、バックラッシュなども起こっています。ふくしま女性フォーラムも活動の分岐点にさしかかっているとと言えるでしょう。

私はとりわけ、地域社会の問題を体系的、系統的に調査し、地域をジェンダーの視点で分析する必要性を痛感しています。福島大学では、男女共同参画検討委員会で男女共同参画時代にふさわしいジェンダー学教育を実現するために話し合いが行なわれています。ふくしま女性フォーラムとしても今までのように県や市町村との働きかけだけでなく、大学との連携を図っていくことが今後の課題だと思います。

「DVにさらされる子どもたち」

加害者としての親が家族機能に及ぼす影響

ランディ・バンクロフト/ジェイ・G・シルバerman著/幾島幸子訳

【翻訳企画】

(財)アジア女性交流・研究フォーラム

(財)せんだい男女共同参画財団

(財)福島県青少年育成・男女共生推進機構

(財)横浜市女性協会

A5判/208頁 2004年7月刊
 ■定価2,940円(税込)



本書はお近くの書店でお買い求めいただけます。
 また、出版元にお問い合わせいただいても結構です。

金剛出版:東京都文京区水道1-5-16 ☎03-3815-6661

ドメスティック・バイオレンス(DV)がある家庭に育つ子どもたちは、自分や母親へ直接暴力を受けることによって、身体だけではなく、精神的にも重大な影響を受けています。

本書の特色は、これまで個別の問題として扱われてきた「DV」と「児童虐待」を密接な問題として関連づけてとらえていることです。

北米児童福祉リソースセンター(North American Resource Center for Child Welfare) 2004 Pro Humanitate Literary Award 受賞。

The Batterer as Parent

Addressing the Impact of Domestic Violence on Family Dynamics



未来館
MIRAIKAN NEWS

2004.8
No. 14

■編集・発行

(財)福島県青少年育成・男女共生推進機構

福島県男女共生センター～女と男の未来館～

〒964-0904 福島県二本松市郭内一丁目196-1

TEL (0243) 23-8301(代) FAX (0243) 23-8312

ホームページアドレス <http://www.f-miraikan.or.jp>

メールアドレス mirai@f-miraikan.or.jp



この広報誌は、古紙配合率100%再生紙を使用し、環境にやさしい大豆インキを使用しています。